

# 道路脇の 労働者たち



首都アクラから北に延びる道を、一日の労働を終え家路につく人々を乗せて走るオート三輪車。その道路脇には、さまざまな労働者の姿があった。





アブラヤシから油を採る女性。ヤシ油は調理用として利用価値が高い



1927年、黄熱病の研究のため野口英世が上陸した港のあるジェームスタウン



アブラヤシの房を売る夫婦。一房5〜8キロほどの重さだ



「カタツムリ買ってよ!」と集まってきた子どもたち。何ともたましい姿だ



雨期の雨で緑に染まった大地。南部は雨が多く、主な輸出品であるカカオ豆の一大生産地だ



アルマジロは「武装したもの」を意味するスペイン語が由来。敵が来ると体を丸めて身を守るといわれるが、しっぽをつかまれてなす術がないようだ

## 地球ギャラリー vol.51

黄色に熟したカカオの房は、道路からでも目に付きやすい。チョコレート原料となるカカオ豆はガーナ経済を支え、そして、庶民の食を裏から支えるのがヤシ油だ。西アフリカ原産のアブラヤシから採れるヤシ油はガーナ料理には欠かせない。道路脇には、赤く熟したアブラヤシの房を山積みにして、客を待つ夫婦の姿があった。

黄色に熟したカカオの房は、道路からでも目に付きやすい。チョコレート原料となるカカオ豆はガーナ経済を支え、そして、庶民の食を裏から支えるのがヤシ油だ。西アフリカ原産のアブラヤシから採れるヤシ油はガーナ料理には欠かせない。道路脇には、赤く熟したアブラヤシの房を山積みにして、客を待つ夫婦の姿があった。

「地元人間が買えば40セディだよ」と耳元でささやく。アフリカでは商品の値段は交渉で決まる。さすがに3倍は吹っかけ過ぎだと思いが、このくらいのたくまじさが生きていくには必要なのだ。

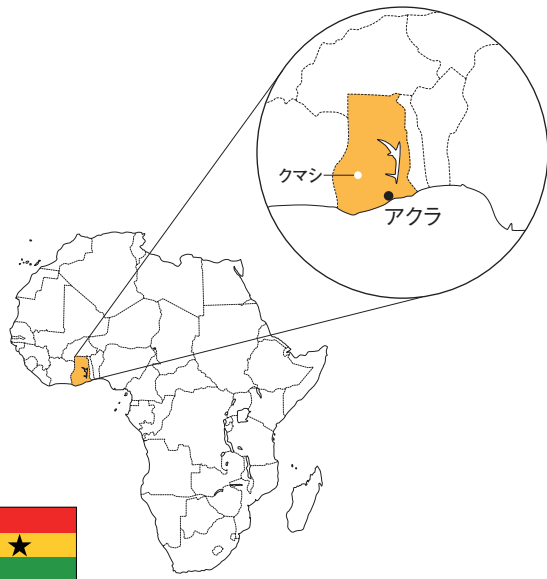
思えば少年たちの写真をたくさん撮り、話を聞いただけ聞いて、何も買わずにその場を去った私に、少年たちをどうこう言う資格はない。

私に関心がないと見て取ると、今度は「アペセ!」と言って、小動物を目の前に突き出した。よく見るとアルマジロである。「食べるとおいしい。130セディだ」と年長の少年が言う。しかし、隣にいた運転手

「スネル! スネル!」  
車から降りた私の方に、数人の子どもたちが近付いてきた。手には食用カタツムリ「スネル」を持っていく。全長20センチはありそうだ。夏休みの小遣い稼ぎのため、森に入り探してきたのだという。何を買いたいのかと聞くと、あめなどのお菓子に混じって、鉛筆やボールペンという答えが返ってきた。

「スネル! スネル!」  
車から降りた私の方に、数人の子どもたちが近付いてきた。手には食用カタツムリ「スネル」を持っていく。全長20センチはありそうだ。夏休みの小遣い稼ぎのため、森に入り探してきたのだという。何を買いたいのかと聞くと、あめなどのお菓子に混じって、鉛筆やボールペンという答えが返ってきた。





首都：アクラ  
 面積：23万8,537km<sup>2</sup>(日本の約3分の2)  
 人口：約2,500万人(2011年)  
 言語：英語  
 宗教：キリスト教、イスラム教、伝統的宗教  
 1人あたり国民総所得(GNI)：1,410ドル(2011年)  
 経路：日本からの直行便はなく、ロンドン、ドバイなどで乗り継ぐのが一般的。  
 通貨：ガーナセディ(GHS) 1GHS=約42.8円(2012年11月現在)  
 気候：アクラがある南部では、5~11月が雨期、12~4月が乾期。北部では4~10月が雨期。気候は1年を通じて蒸し暑く、南部の平均気温は25~30度、日中の湿度は90%前後と高い。



道端の果物屋。車からも目立つように並べ方にも工夫を凝らしている



市場近くの水路は破棄されたハイテク製品であふれていた



稲穂をねらう鳥を“パチンコ”で追い払う女性。刈り入れまで人と鳥の攻防は続く

道路脇にある低湿地の田んぼでは、収穫期を迎えた稲穂が頭を垂れていた。経済的にゆとりのある都市部を中心に、ガーナではコメを食べる人々が急速に増えている。しかしそれに生産が追い付かず、多くは輸入に頼っているのが実情だ。

田んぼの中央の見張り小屋では、大人が数人、鳥の襲来から稲穂を守っていた。手にはパチンコ、足元には泥を丸めて乾燥させたパチンコ玉が並んでいる。稲刈りは数日後に迫っている。

アクラ市内では、アグボグブロシエ市場が強く印象に残った。広大な市場の一角にテレビやオーディオ、パソコンなど電子機器のリサイクルショップが並ぶ。その隣の道路脇では、15~20歳くらいの若者たちが、マスクも着けず素手で、レアメタルなどの貴重な金属を含むプリント基板やケーブルを選別している。働く人の安全や環境への配慮はここにはない。アフリカの優等生といわれるガーナの陰の部分を見たような気がした。

前方ではなく道路の脇に目を凝らすと、そこに働く人々の姿とガーナの今が見えてくる。



ケーブルを燃やして銅線を取り出すときに有害ガスが出るという

刈り取ったイネの穂を運ぶ少年



### ガーナ料理 具だくさんの濃厚スープ 「グランナツスープ」



ガーナでは、ヤムイモやキャッサバといったイモ類、プランテンと呼ばれる甘くないバナナが主食。中でも、国民に親しまれている伝統的な主食がフフ。見た目も食感も、日本のおもちにそっくり。ヤムイモやキャッサバをゆでて臼に入れ、一人がきねでつき、一人が手でこねていく。その様子はまるでもちつきのようなのだが、最近ではヤムイモのパウダーを練るだけという簡単な作り方もある。

フフなどと一緒に食卓に上がるのが煮

込み料理。オクラやヤギ肉を入れたり、トマトソースやヤシ油で煮込んだりとアレンジは自由自在。

中でも「グランナツスープ」は家庭料理の定番だ。野菜、魚、肉をトゥガラシやコショウなどの調味料と一緒に煮込み、すりつぶしたピーナツを加えてとろみを出す。辛さの少し効いたコクのある味わいで、中にフフやご飯を入れて、手で食べるのが一般的だ。

東京・田町にある「アフリカン食堂サバンナ」でシェフを務めるのはガーナ出身のジョイス・オセイボンスさん。日本ではなかなか味わえないフフをはじめ、現地で人気のスープなど本格的なガーナ料理を提供してくれる。



#### 【材料(4人前)】

牛肉400g／タマネギ1個／トマト2個／魚の干物1枚／ニンジン2分の1本／無糖ピーナツバター大さじ4／ブイオン2個／A:シヨウガ・ニンニク・トゥガラシ・塩コショウ各少々／フフかご飯

#### 【作り方】

1. 一口大に切った牛肉、みじん切りにしたタマネギ、ブイオン、Aを鍋に入れて少量の水を加え、ふたをして火にかけて10分ほど蒸す。
2. 1に切った魚の干物とニンジン、ミキサーにかけたトマト、水(600ml)を加え、牛肉が柔らかくなるまで煮る。
3. 別の鍋で無糖ピーナツバターと水(200ml)をよく混ぜ、表面に油が出てくるまで煮詰めたら、そのまま2に混ぜ入れ20分ほど煮る。
4. フフかご飯に盛りつける。

#### アフリカン食堂サバンナ

〒108-0023 東京都港区芝浦3-14-3 青木ビル3F  
 TEL: 03-3457-6226  
 営業時間: 11時半~14時半、18時半~22時 日・祝定休  
 URL: www.savanna-kitchen.net/

“マーケット・マミー”と呼ばれる女性たちが、早朝の市場を活気づけていた





## 1 母子保健サービスの向上



© 飯塚明夫

### 母親と子どもたちの健康を願って

妊産婦と5歳未満児の死亡率の改善に力を入れているガーナ。JICAはこれを後押しすべく、HIV／エイズの母子感染予防のため、首都があるグレートアクラ州で啓発マニュアルの作成などを進めている。貧困層が多い北部のアップパーウエスト州では、基礎的な医療サービスをコミュニティごとに受けられるよう、“地域保健師”が常駐する診療所の建設を支援。また、彼らを対象にした研修を通じて、産前・産後健診の推進や保健指導に必要なノウハウを伝えるなどの人材育成も行っている。



2010年に中所得国入りを果たしたガーナ。首都アクラを含む南部の都市部に人口が集中し、北部は経済成長から取り残されている。JICAはすべての国民が発展の恩恵を受けられるよう、地域格差の是正に貢献する支援を続けている。

### JICAの支援

ここがポイント!

- 母子保健サービスの向上
- 農業振興
- 経済インフラ整備

## 2 農業振興



© 飯塚明夫

### 小さな工夫でコメの生産性を向上

ガーナではコメが主食の一つだが、国内消費量の6～7割はこれまで輸入に依存。JICAは国内産のコメ増産を目指し、現地の農業普及員とともに生産性を高めるための“コツ”を伝えている。コメの消費量が多いアシャンティ州と稲作が盛んなノーザン州では、収穫高が降水量に左右されないよう、水を効率的に使える水田の整備方法や、手押し農機具を使った除草方法などを日本人専門家が指導。農家の人々が自分たちの手で持続できる技術の普及に努めている。



## 3 経済インフラ整備



### 産業を支える主要道路を改修

ガーナの主な輸出産品は、金、木材、カカオ豆。これらは主に中部で生産され、国の南北を結ぶ国道8号線を通して、南部のタコラデイ港まで運ばれ出荷される。物流の要であるこの8号線は、1990年～94年にJICAの支援で舗装されたもの。しかし、重量規定以上の貨物を積んだ車両の交通量が増加し、アスファルトがはがれたり、路肩が崩れたり劣化が進んでいる。そこでJICAは、特に交通量が多い区域約60キロの改修と、老朽化した橋の架け替えを支援している。



© 飯塚明夫